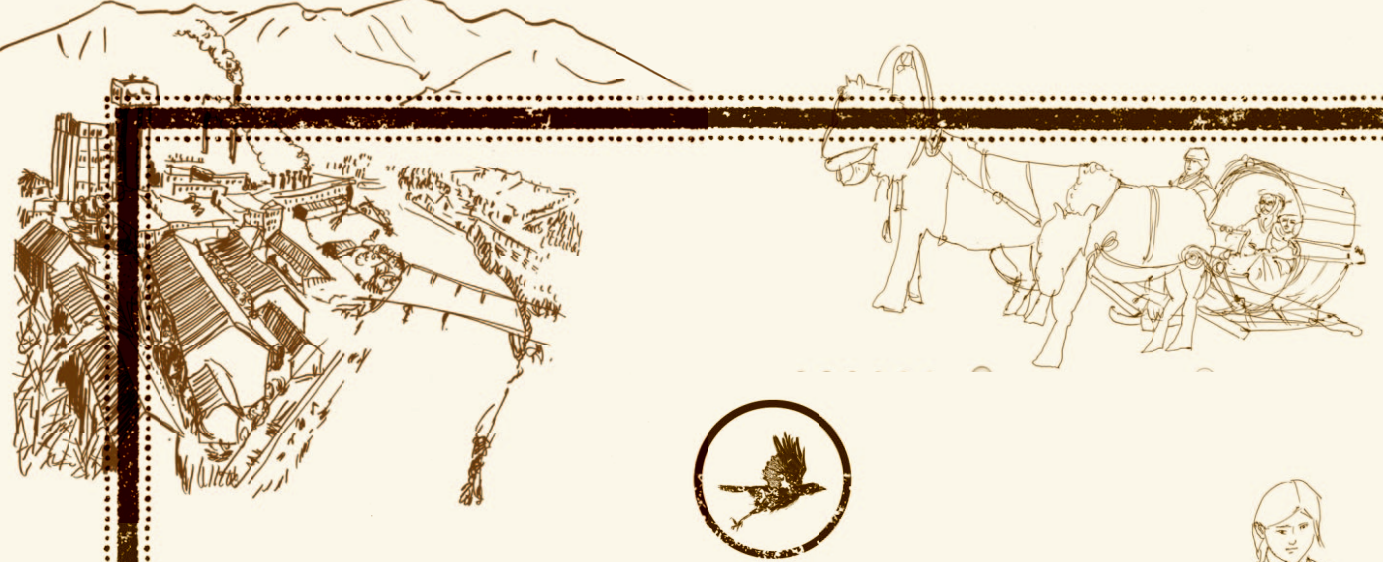




И ЧЕХОВ ТОЖЕ НАЗВАНИЕ ПТИЦЫ

ニットキャップシアター 第41回公演
チーホフも鳥の名前

가이드북

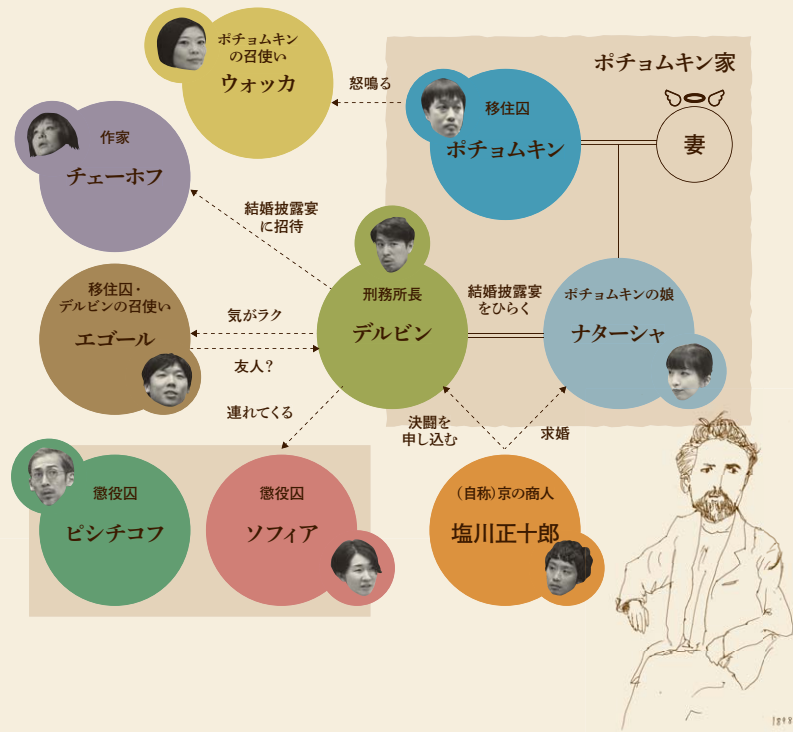
サハリン島にチーホフという町があること知ったのはもう10年以上前です。それから少しずつ資料を読み、構成を進めて、二年前に「チーホフも鳥の名前」を上演しました。そしていま機会を得て再演することが出来ました。ご来場くださった皆様をはじめ、尽力してくださった皆様にお礼申し上げます。サハリン島／樺太の近代は国家の思惑に翻弄される人々の歴史です。その姿は、ともすれば社会や国家に不信感を抱いてしまう現在の私たちにも鋭く突き刺さります。それ故にでしょうか。今もサハリン島／樺太を舞台にした小説や、新書、学術書は沢山出版されています。「チーホフも鳥の名前」は、1980年代で物語を終えますが、その後の様子もいくつか物語にしたいと思っています。

——ごまのはえ



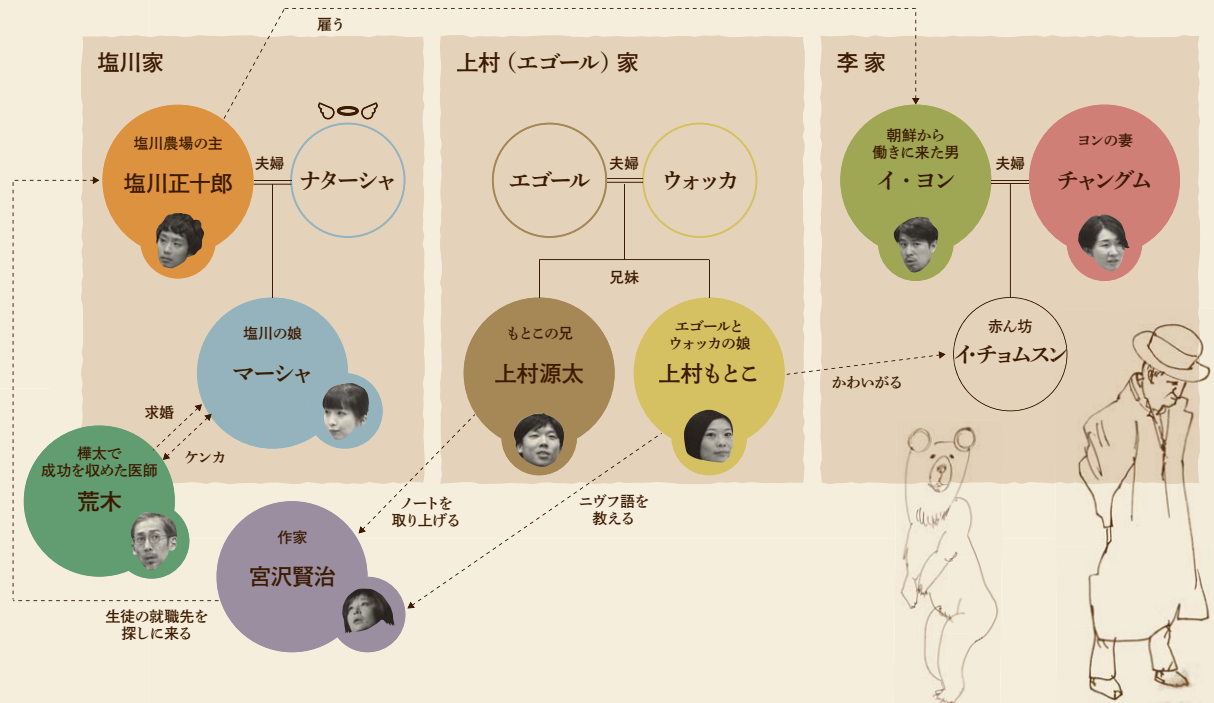
第1幕

時期 1890年(明治23年)ロシア領時代
場所 ポチョムキン邸 南西部の町(後の野田)



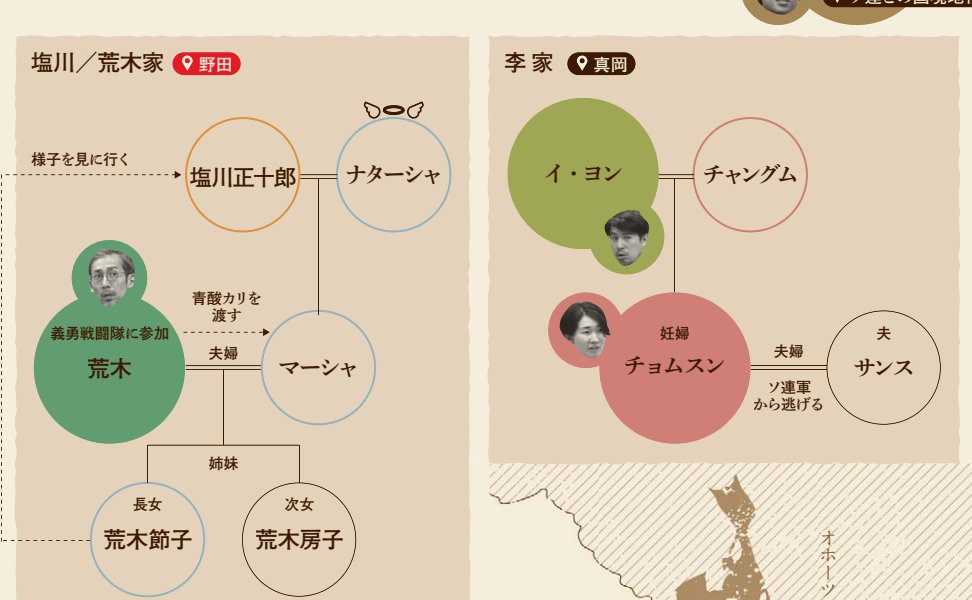
第2幕

時期 1923年(大正12年)日本領時代
場所 塩川農場 野田



幕間

時期 1945年(昭和20年)8月 日本領時代
場所 野田/真岡/ソ連との国境地帯



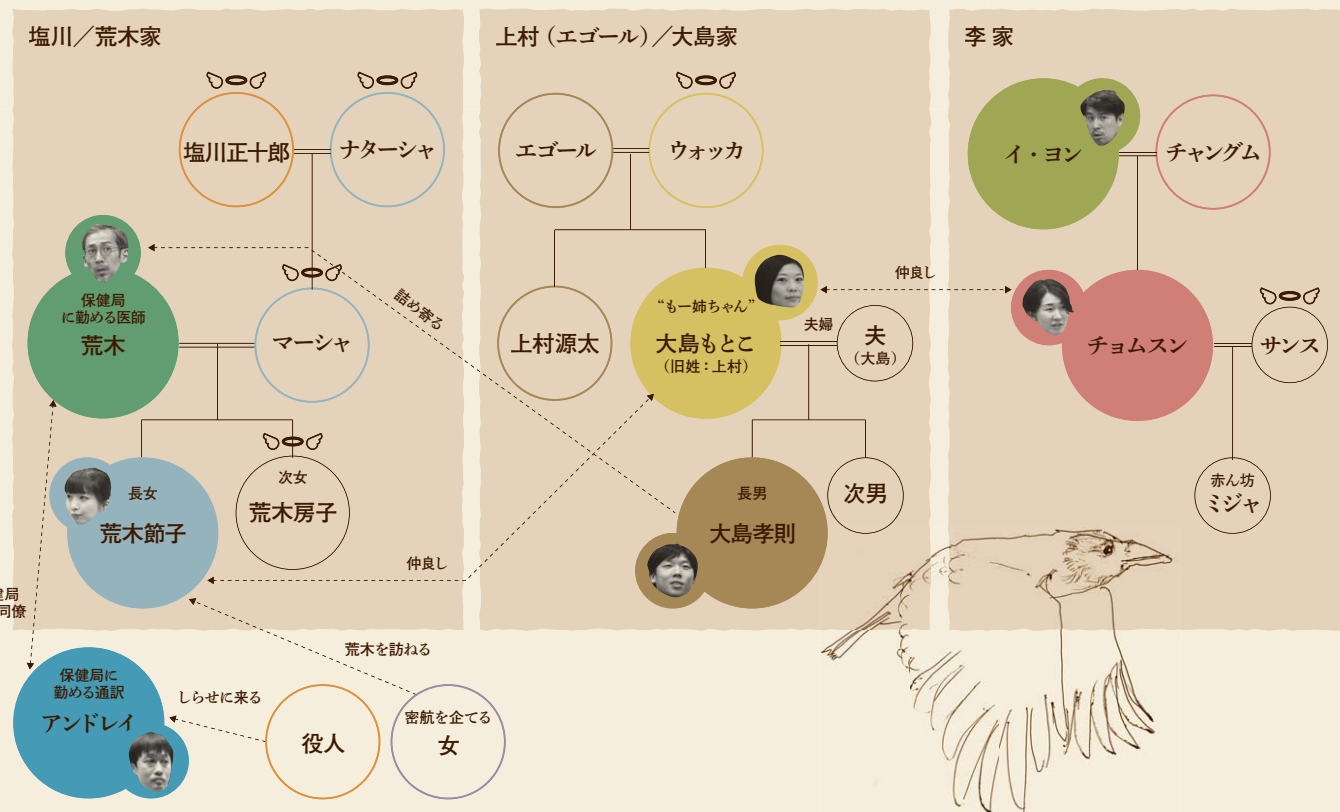
人物関係図

- | | | |
|---|---|--|
|  門脇俊輔 |  仲谷萌 |  西村貴治 |
|  高原綾子 |  池川タカキヨ |  山岡美穂 |
|  澤村喜一郎 |  千田訓子 |  山谷一也 |

演奏：田辺響 歌・演奏：黒木夏海

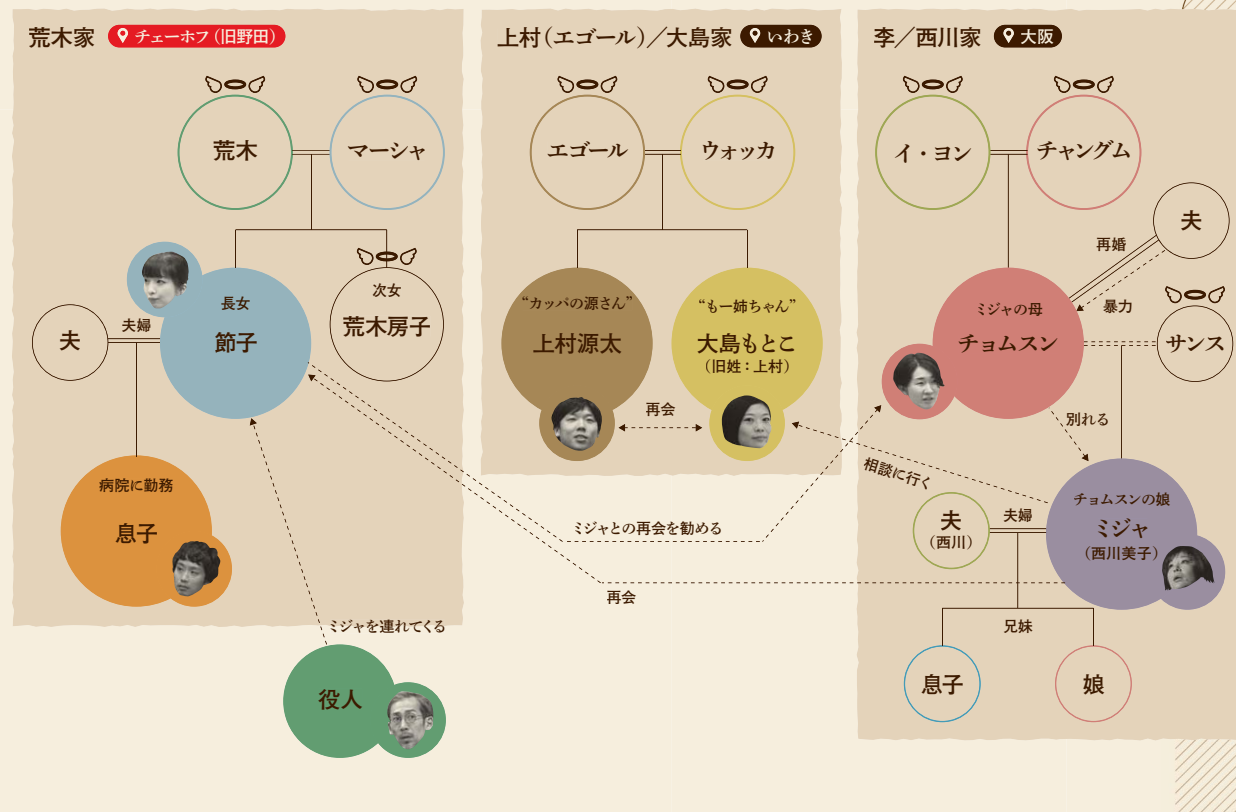
第3幕

時期 1945年(昭和20年)12月
場所 食堂(元塩川農場) 野田



第4幕

時期 1980年代(昭和55年〜)/戦中の回想
場所 チェーホフ(旧野田)/いわき/大阪



チェーホフ
野田(南西部の町)



年表

第1幕

1867年 江戸幕府とロシア政府（帝政）の間で、「日露間樺太島仮規則」が結ばれる。これによりこれまで通りサハリン島が、日本人とロシア人と先住民が雑居する地区であることが確認される。

1867年 明治維新（戊辰戦争開始）

1875年 樺太・千島交換条約によって、サハリン島は全島ロシア領となる。

1890年 7月 チェーホフ来る。7月11日から約3か月滞在。

1905年 日露戦争によりサハリンの南半分（南樺太）が日本領に。

1910年 日韓併合。

1917年 ロシア革命。

1920年 シベリア出兵中の日本軍と民間人をソ連軍が虐殺（尼港事件）。その報復として日本軍が北樺太に進軍。以降ソ連政府と国交が樹立するまでサハリン島は日本が全島支配する。

第2幕

1923年 8月 宮沢賢治来る。目的は花巻農学校の生徒の就職を探すため。前年に妹のトシを亡くしていた賢治はこの樺太旅行で『青森挽歌』『オホーツク挽歌』を創作する。またこの旅から『銀河鉄道の夜』の着想を得たと言われている。

第3幕

1945年 8月9日 ソ連軍が南樺太に進軍開始。15日終戦。20日引揚げのためたくさんの人でごったがえす港町「真岡」をソ連軍が攻撃。たくさんの死者をだす。22日樺太から北海道を目指す引揚げ船3艘がソ連軍により撃破。

1946年 米ソ引揚げ協定により樺太に住む日本人の引揚げが始まる。ソ連はサハリン島を開発する労働力として日本人・朝鮮人の引揚げを引き延ばそうとした。

1947年 サハリン州設立。

1952年 サンフランシスコ講和条約により日本は主権回復。南樺太を正式に放棄。ただソ連はこの条約に批准せず。

第4幕

1956年 日ソ共同宣言によりサハリン島の日本人の引揚げに関して、日本とソ連の間でやり取りがはじまる。

「米ソ引揚げ協定」と「日ソ共同宣言」で、30万人いた日本人はほとんどサハリンから引揚げた。しかし、4万人いるとされる朝鮮人（またはその日本人妻）は取り残された。その理由は以下の通り。

①日本政府としては朝鮮は日本から独立したので、日本人ではないという理屈。

②ソ連は同じ社会主義国である北朝鮮への帰還を積極的にすすめたという思惑。（しかし在サハリンコリアンの多くは南朝鮮出身だった）

③当時の韓国は経済状態が極めて悪く、引揚げ事業に消極的だった。

以降、60年、70年、80年代と冷戦下でサハリンと日本の交流は減った。ただサハリンには日本のラジオが届くので日本の歌が流行った。また日本から1965年に「サハリン墓参団」が派遣。これは以後80年代まで続いた。そしてサハリン在住の日本人女性が個人でサハリン在住日本人（夫は韓国人だったりロシア人だったりする）のリストを作り始めた。

1981年 10月 作家 李恢成が第12次サハリン墓参団に同行して、サハリンに来る。

この頃ソ連政府は韓国への帰国を求める在サハリンコリアンを北朝鮮に強制移住させた。

1989年 ゴルバチョフ政権でサハリンへの外国人立ち入りが緩和される。薬師丸ひろ子がサハリンに来る。樺太同胞一時帰国促進の会（現在の日本サハリン協会）設立。日本への一時帰国が始まる。

1991年 ソ連崩壊。

1992年 サハリンから日本への永住帰国もはじまる。

2000年 日本が建設費を負担して韓国にサハリン帰国者用の住居「故郷の村」が建設される。そこには日本人妻も多数入居している。



ニットキャップシアター

第41回公演 | チェーホフも鳥の名前

伊丹公演 | 2022年1月14日[金] — 17日[月]
AI・HALL 伊丹市立演劇ホール

AI・HALL

東京公演 | 2022年1月26日[水] — 30日[日]
座・高円寺1

座 高円寺

ZA-KOENJI PUBLIC THEATRE

冬の劇場20

日本劇作家協会プログラム

作・演出

ごまのはえ

出演

門脇俊輔

高原綾子

澤村喜一郎

仲谷萌

池川タカキヨ

西村貴治

山谷一也

千田訓子

山岡美穂

パーカッション

田辺響

歌

黒木夏海

スタッフ

舞台監督=河村都（華裏）

舞台美術=西田聖

照明=葛西健一

音響=三橋琢

映像=堀川高志（kutowans studio）

飯阪宗麻（NOLCA SOLCA Film）

写真協力=後藤悠樹

衣装=清川敦子（arm）

小道具=仲谷萌

演出助手=小山裕暉（テノヒラサイズ）、池川タカキヨ

韓国語監修=徐義才

ニヴフ語指導=白石英才（札幌学院大学）

岩手弁指導=劇団あす（花巻市）

絵=竹内まりの
宣伝美術=山口良太（slowcamp）

題字=ヤマムラショウコ

記録写真=井上大志（Leo Labo）

制作=高原綾子、門脇俊輔、澤村喜一郎、池田みのり【東京公演】

当日運営【東京公演】=齋藤有里、中宮知彩

協力=株式会社リコモーション、山口浩章

資料協力=一般社団法人全国樺太連盟

NPO法人日本サハリン協会

【伊丹公演】

企画制作=伊丹市立演劇ホール

主催=公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 / 伊丹市

【東京公演】

主催=一般社団法人毛帽子事務所

ニットキャップシアター

提携=NPO法人劇場創造ネットワーク / 座・高円寺

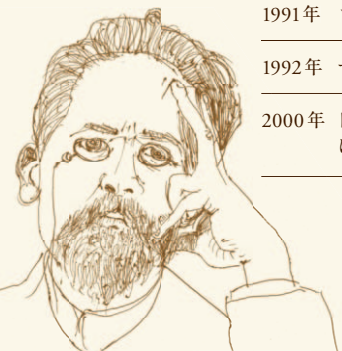
託児協力=NPO法人ちいきちいき

Special Thanks=タマラ、井神拓也

САХАЛИНЪ



チーホフ
の
鳥
の
名
前



助成=文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
（伊丹公演）

芸術文化振興基金
（東京公演）

後援=

未来の会議

未来の会議 ミラチケ象公演
（東京公演）

KYOTO ART CENTER

京都芸術センター
制作支援事業

日本劇作家協会